

「くまもと教育の日」関連企画 肥後古代の森鹿央地区現地見学会

歩いて、見て、感じよう！ 岩原台地に眠る古墳時代人の想い

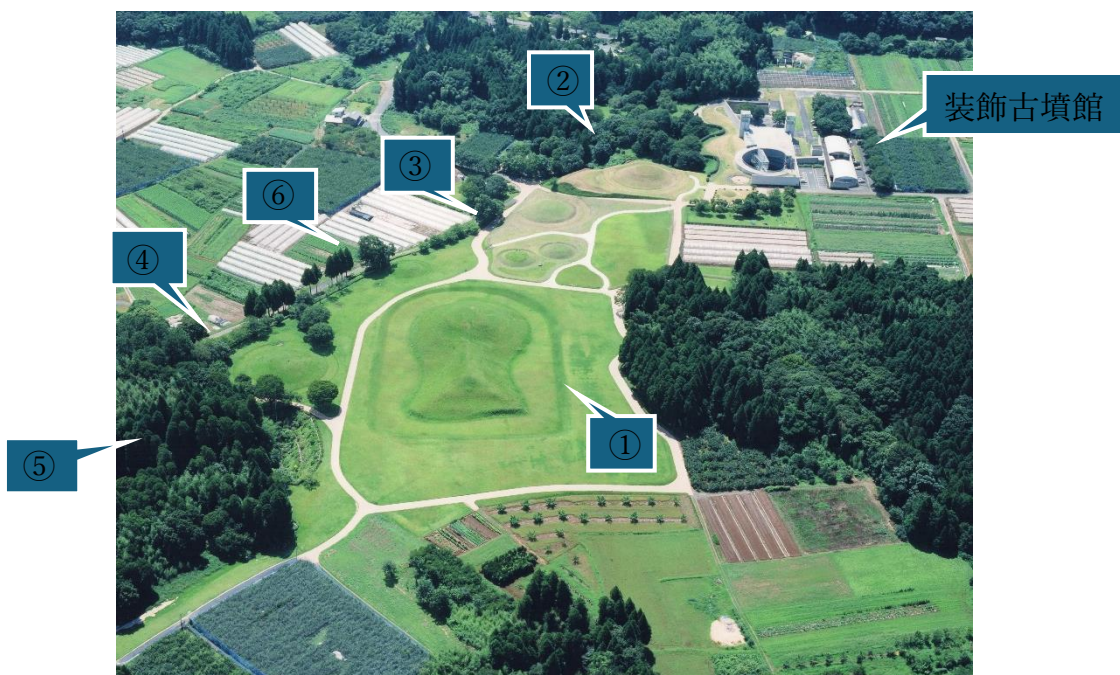


いわばるこふんぐん 岩原古墳群

岩原古墳群は、鹿央地区の岩原台地に築かれた10基の古墳群から構成される古墳群です。主墳である^{ふたごづか}双子塚古墳は県内最大級の前方後円墳で、旧来の姿を残したまま現状保存されています。その周囲には9基の円墳（^{かんぼる}寒原1～3号墳・^{うま}馬不向1～3号墳・^{しもばる}下原古墳・^{きつねづか}狐塚古墳・^{つかばる}塚原古墳）が分布しています。

岩原古墳群を構成する各古墳の概要

No.	古墳名	概要
①	双子塚古墳	・ 岩原古墳群の主墳をなす前方後円墳（全長：126m 墳長：107m 後円部高さ：9.3m）。 ・ 5世紀頃に築造された首長墓と推定される。 ・ 三段築成で、墳丘斜面に葺石をもつ。
②	寒原 1～3号墳	・ 1号墳は岩原古墳群の最も南に位置する円墳（墳径約27m）。墳丘斜面に葺石をもち、幅7mの周溝を巡らせる。 ・ 2号墳では破壊された家形石棺が発見されている。
③	馬不向 1～3号墳	・ 1号墳は双子塚古墳の南に位置する円墳（南北23m、東西27m）で、墳丘斜面に葺石をもち、幅7mの周溝を巡らせる。
④	下原古墳	・ 双子塚古墳の北東に位置する円墳（南北31m、東西28m）。 ・ 墳丘斜面に葺石をもち、幅8mの周溝を巡らせる。 ・ 墳丘北側に陸橋が確認されている。
⑤	狐塚古墳	・ 双子塚古墳の北東に位置する円墳（墳径約18m）。 ・ 横穴式石室で、天井石その他石材が失われている。
⑥	塚原古墳	・ 双子塚古墳後円部の東側に位置する円墳。 ・ 墳丘斜面に葺石をもち、幅7mの周溝を巡らせている。



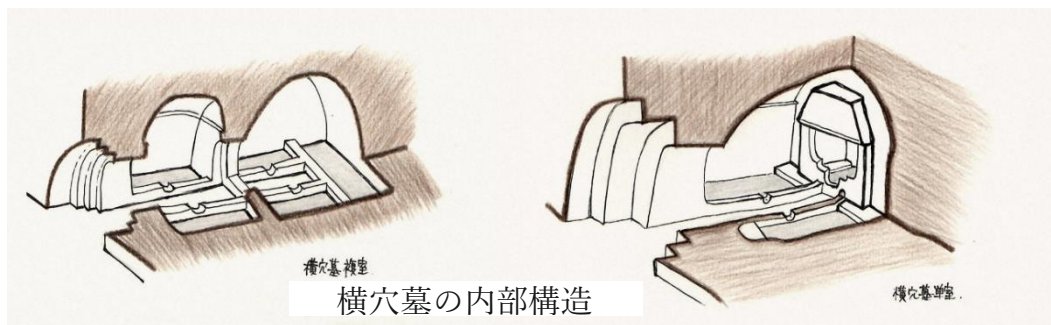
岩原横穴墓群



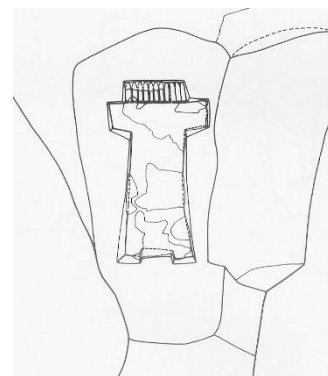
岩原横穴墓群

岩原台地の北側から西側にかけての崖面 550m にわたる範囲には、岩原横穴墓群が分布しています。これらは6世紀頃、当時の豪族に仕えていた人々が家族のために造ったお墓です。

この横穴墓群には 131 基が分布し、地形から I～VI群に分かれています（I群：48 基、II群：9 基、III群：7 基、IV群：11 基、V群：42 基、VI群：14 基）。このうち、装飾の施されたものは I 群 14 号、15 号、23 号、32 号、38 号、39 号、IV群 3 号、V 群 6 支群 6 号の計 8 基です。また、V-6-6 号墓は装飾横穴墓であると同時に、岩原横穴墓群で確認できる唯一の複室横穴墓です。



8 基ある装飾横穴墓のうち、例えば I 群 32 号墓の入り口には浮彫で轅^{ゆき}が刻まれ、玄室にはゴンドラ形をした屍床仕切りの前面に赤の彩色が確認されています。また、I 群 14 号墓ではゴンドラ形の舟を表現した屍床仕切りに円錐台形の突起が見られ、「櫓べそ」ではないかと考えられています。



I-32 号 装飾文様実測図（轅）

横山古墳

横山古墳はかつて、熊本県鹿本郡植木町の九州縦貫自動車道建設予定地と重なる場所にありました。昭和44年の発掘調査後、古墳の石室は解体され、その石材は長らく保存されていましたが、24年後の平成4年に県立装飾古墳館の隣接地（肥後古代の森の一角）に移築復原されました。

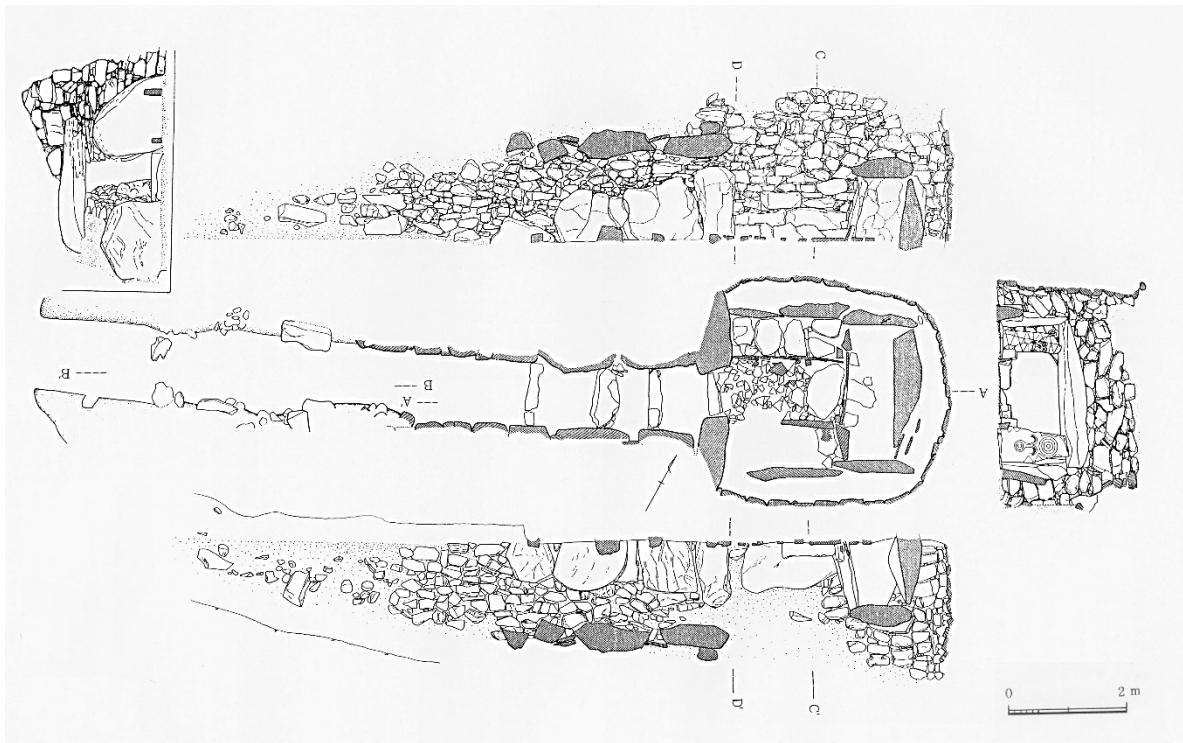
前方後円墳は全国に多く存在しますが、装飾文様のある例は限られています。そこに描かれている双脚輪状文は全国で5例のみを数える稀少な文様です。

横山古墳の概要（以下は解説案内板と同様の内容です）

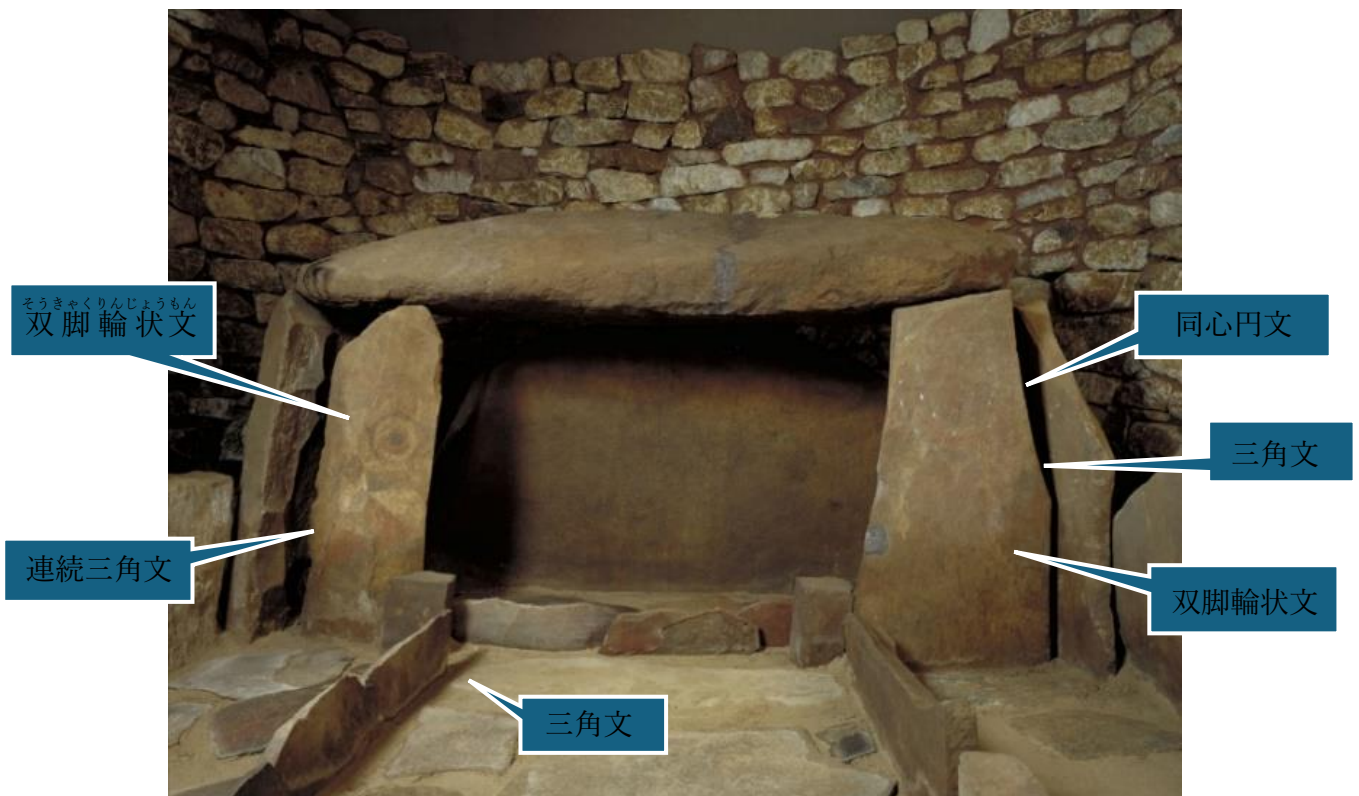
○旧所在地：熊本市北区植木町大字有泉字横山

○築造時期：古墳時代後期（6世紀後半）

項目	概要	
墳丘	<u>前方後円墳</u> 全長：39.5m 高さ：（後円部）5m （前方部）3m	
石室構造	・後円部に横穴式石室 ・西向きの入り口から長い羨道が続き、玄室へ到達する ・石屋形とその左右前方に灯明台？ ・通路を挟み、左右に板石で仕切った屍床	
石材	主に石灰岩、一部に安山岩を積み上げている ※一辺が3.8cmの隅丸のほぼ正方形	
装飾文様	右袖石	同心円文、双脚輪状文、三角文
	左袖石	双脚輪状文、連続三角文
	仕切り石	三角文
顔料	赤・灰・白	
出土遺物	須恵器 土師器 鉄製品（馬具・武具・鏃・刀子） 装身具（金環、玉類） 計200点以上 ※石屋形や屍床、通路等には多量の人骨が埋葬されていた	



横山古墳 実測図



横山古墳 各部装飾